

高木監督(唐津市出身) 5作品入賞

東京都唐津市出身の映画監督高木裕己さん(74)が制作した交流サイト(SNS)の危険性を訴える教育映画など5作品が、今年の教育映画祭で最優秀作品(3点)に次ぐ優秀作品に選ばれた。大手映画会社も出品する中、優秀作品12点のうち5点を占めている。19日に都内で表彰式が開かれる。

東京都唐津市



教育映画祭、SNSの危険性と対策訴え



教育映画祭の優秀作品に5作品が選ばれた高木裕己監督の教育映画「SNSに何気なくのせたら?」の一場面

優秀作品に「安全に使うこつ身につけて」

受賞作は、小学校部門の「SNSに何気なくのせたら?」をはじめ、高等学校部門の「SNSで巻き込まれる犯罪」、社会教育部門の「子どもがSNS犯罪に?」「ながらスマホ」の危険性に迫る「職能教育部門の「いじめの構造を考える」の5作品。

このうち、SNSの危険性を訴えた「SNS防犯対策シリーズ」は、小学生から中高生、指導者や保護者向けまで世代に応じて3作品にまとめた。ITジャーナリストで成蹊大学の高橋暁子客員教授を監修に迎えている。

高木監督は「SNSは子どもたちにとっても便利で楽しいものだが、犯罪に巻き込まれるケースが増えている。この犯罪は『加害者の顔が見えない』『SNSの情報を簡単に信用してしまふ』のが特徴で、安全に使うためのこつを身につけてもらいたい」としている。

「SNSに何気なくのせたら?」(収録時間16分)、「SNSで巻き込まれる犯罪」(21分)、「子どもがSNS犯罪に?」(22分)はDVDで販売。図書館などのライブラリー価格は各7万4800円(税込み)。問い合わせは映学社、電話03(3335)9129。(古賀史生)